

緊急事態(地震:Earthquakes)



■地震 (Earthquakes)

日本は世界でも有数の地震の多い国です。1995年1月には兵庫県を中心に大きな地震が発生し、大きな被害をもたらしました。また、東海地方など近い将来大きな地震の発生が心配されている地域もあります。

大地震による被害を最小限にできるかどうかは、日ごろの十分な備えと地震がおきたときに適切な行動がとれるかにかかっています。

地震が起きたときのために、日ごろの備えをしておくことと、地震の心得を十分頭に入れておく必要があります。



●日頃の備え (Be Prepared for an earthquake at all time)



1) 水と食べ物の備蓄を万全に

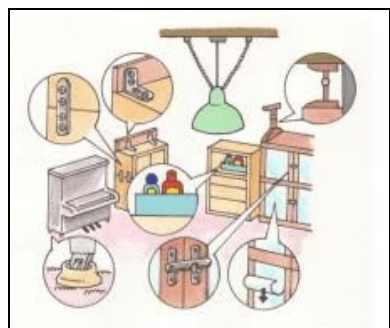
阪神淡路大震災でもそうでしたが、地震の後、すぐに困るのが水と食べ物です。

最低3日分を用意しておきます。水の必要量は1日1人3リットル。保存水、ミネラルウォーターなどを用意しておきます。また、初期消火や水洗トイレ用に浴槽に水をためておくとも良いです。食べ物は、缶詰、カンパン、ビスケットなど長期保存のきくものを常備しておきます。保存期間をチェックして時々入れ替えます。



2) 家具の固定と落下物の対策

家具の転倒による圧死やケガの心配がありますので、家具を固定したり落下しそうな物を点検してください。また、ガラスが散乱したときのために、座布団やスリッパ、室内用の幅広粘着テープを用意しておきます。



3) 懐中電灯、携帯ラジオの用意

避難と情報収集の必需品である懐中電灯と携帯ラジオを用意しておきます。電池のチェックや予備の電池も用意します。

4) 危険な場所には近寄らない

ブロック塀や自動販売機など、地震時の危険箇所を心に留めておき、地震が発生したときには近寄ってはいけません。ビルの窓ガラスにも注意します。

地震 その時10のポイント

【大きく揺れた時の行動】

【地震時及び直後の行動】

】

1. グラツきたら身の安全

大きな揺れを感じたら、まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子を見る。



2. あわてた行動 けがのもと

屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。



3. 窓や戸を開け 出口を確保

小さな揺れるとき又は揺れがおさまったときに、避難できるよう出口を確保する。



4. 門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



5. すばやい消火 火の始末

火を消す3度のチャンス

1. 小さな揺れを感じた時
2. 大きな揺れがおさまった時
3. 出火した時



6. 落下物

あわてて飛び出さない

瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので注意する。



7. 正しい情報 確かな行動

ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



8. 確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



9. 協力し合って救出・救護

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



10. 避難の前に安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。

